

平成28年度 調布市立 石原小学校 学校評価報告書				様式
領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度優先順位
学力向上	<p>○管理職による授業観察・指導、教員による相互授業参観、研修会等を通して授業研究に努めた。そのことにより、挨拶や発言などの授業規律、本時の「めあて」や「まとめ」の板書、ノート指導の方法などの「石原スタンダード」を更新、共通理解して取り組むことができた。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「学校教育目標や学年目標は達成されていると思いますか。」 88% 「授業で、基礎・基本の力の定着や学ぶ力の育成が図られていると思いますか。」 89%という肯定的評価であった。本校の授業について信頼を得ていると考える。</p>	<p>○授業の質を高めるため、校内の授業研究、校外での研修を積極的に行っていく。 ○授業改善プランやベーシックプランを整備し、東京ベーシックドリルを活用していく。 ○家庭学習について、保護者の理解・協力を得る取組を行う。 ○朝学習の回数を増やし、東京ベーシックドリル等を活用する。高学年までに必要な内容を繰り返し身に付けさせる。</p>	A
	<p>○習熟度別指導を適正に実施するとともに、各グループの人数に軽重を付けたり、グループごとに課題提示や授業展開、補充問題を変えるなど、都の習熟度別指導の工夫改善、充実を図った。 ○研究授業を通して、算数科における問題解決型学習のスタイルを共通理解することができた。 ○校長による講演を設け、問題解決学習やノート指導、板書の方法について、校内のルールを作ることができた。 ○都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」において、A～Cの四層のうち、上位AB層を30%以上増やすことができた。 ○児童の学習意欲向上、基礎基本の徹底、表現力の伸長等に効果が見られた。</p>	<p>○児童（高学年）対象のアンケートでは、「授業はわかりやすく楽しいですか。」 94% 「前よりも、漢字の読み書きや計算力が上がっていますか。」 94%という肯定的評価であった。児童が、学校の授業で楽しさや達成感を感じることができているとかがわれる。</p>	<p>【算数科】 ○これまでの研究成果を石原小スタンダードとして継続・活用していく。 ○3年生以上で習熟度別指導を、1・2年生でTT指導・少人数指導を充実させる。 ○習熟度別の学習指導計画を整備し、グループごとに、課題提示の工夫、解決へのアプローチの工夫、補充・発展問題の精査等を行っていく。</p>	
健全育成	<p>○毎週の生活指導夕会での打ち合わせが有効に機能し、児童の実態や問題の把握、ルールの共通理解、対応やサポート体制の確認などを堅実に進めることができた。 ○年間を通じたあいさつ運動では、全学年・全児童が当番で校門に並び、主体となってあいさつの習慣を身に付けることにつながった。 ○たて割り班活動を通して、6年生が最高学年の自覚をもち、下級生がそれを見習う校風が育っている。 ○教職員による自己評価では、まだまだ場に応じたあいさつが上手にできない、相手によってあいさつが難しいなど課題が挙げられている。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「子どもたちは『学校のきまり』を理解し、守ろうと意識して生活できている。」 90% 「学校は、子どもたちが人とかかわりを深めたり、社会性を育てるための教育に十分取り組んでいると思いますか。」 95%という肯定的評価であった。学校の規律に対する信頼を得られていると考える。 ○児童（高学年）対象のアンケートでは、「学校のきまりや約束は、学校でも学校以外でも守っていますか。」 93% 「学校では、だれにでも自分から進んであいさつしていますか。」 92%であった。 ○評価委員会においても、本校の子どもたちがよくあいさつをしていると評価していただいた。さらに向上を目指し指導に力を注いでいく。</p>	<p>○児童の実態をとらえて、全校で歩調のそろった指導を行う。 そのために、 ・学年、生活指導部、いじめ防止対策委員会等、組織的な対応を進める。 ・実態把握のために、児童アンケートを実施する。 ・いじめの認知について全校で共通理解を進め、早期発見・未然防止に努める。 ・全教職員が同じ指導を行えるように、校内における児童のきまり、指導者のルールを総点検して共通理解を図る。</p>	B
	<p>【アレルギー対応】適切に実施し、事故がなかった。シミュレーション研修や職員朝会などで教職員の知識を深めた。また、管理職が、教室で児童机上の除去食を確認して事故の未然防止に努めた。新規の発症にも適切に対処できた。 【いじめの根絶】いじめや不登校の萌芽に対し、適宜校内委員会やいじめ対策委員会を設け、迅速かつ組織的に対応し、深刻化させることがなかった。 【防災教育】避難訓練を適切に実施し、避難時の適切な態度が育ってきている。 【登下校の安全確保】地域パトロール隊・PTAと円滑な連携を図り、重大な交通事故・事件はなかった。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「学校は、子どもたちの心や体の健康や安全に対し十分に配慮しながら、日々の教育活動に取り組んでいると思いますか。」 95%という肯定的評価であった。 ○児童（高学年）対象アンケートでは、「学校は毎日楽しいですか。」 96% 「友だちをいじめたり、友だちにいじめられたりしないで生活していますか。」 97%という肯定的評価であった。引き続き、事件・事故の未然防止に力を尽くしていく。</p>	<p>○道徳授業を中心に、命と心の教育の充実を図る。 ○年間を通じ、全学年が輪番で「あいさつ運動」を展開する。 ○安全・安心に関する内容については、行うべき確認・調査・対応・研修等を、今年度同様確実に進める。</p>	
健康・体づくり	<p>○オリンピック・パラリンピック教育推進校の取組として、健康増進・国際理解・障害理解等の活動に取り組んだ。 ・マラソン週間・大会、大なわ週間・大会を設けた。運動に対する児童の意欲を高めることができた。 ・なわとび達人を招いた全校集会、低中高別の授業を実施し、児童の関心が高めることができた。 ・フェンシング選手による出前授業を行い、競技に対する関心が高まった。 ・障害がある方を招き、障害の有無に関わらず共生していくことの大切さについて学ぶことができた。 ○健康に対する正しい知識や態度を伸長させる活動に取り組んだ。 ・児童集会において、高学年児童による手洗い・うがいの励行を呼びかけるなどの活動を行うことができた。 ・学校歯科医と連携した事業として、3年生で2週間の歯みがき指導を実施することができた。 ○健康診断結果から受診を勧めているが、なかなか受診が進まない状況がある。保護者の意識を高めたい。</p>	<p>○学校関係者評価アンケートにおいて、「たくましい心や体をつくるための運動や遊び等の取組は十分だと思えますか。」 95%という肯定的評価であった。運動や健康に関する学校の取組に理解をいただいていると考える。 ○関係者評価委員会では、学校での運動に関する取組それぞれについては高い評価をいただいた。しかし、体力調査の結果等から、より一層の体力向上の取組が必要であるという意見が出された。</p>	<p>○オリンピック・パラリンピック教育の全体計画・年間計画を作成し、計画的に取り組む。 ・児童の体力・健康増進の取組 ・オリンピック・パラリンピックの意義を理解する取組 ・国際理解や障害者理解に関する取組 ・保護者・地域への啓発 ○体育授業の充実や、マラソン週間・大会、大なわ週間・大会等の拡充を通して、児童の基礎体力向上を図る。 ○歯みがき指導をはじめ、自分の健康を見つめる活動を通して、児童の健康に対する意識を高める。 ○児童の体力・健康増進について、保護者の協力を求めていく。</p>	B
保護者・連携・地域との	<p>○各学年において保護者・地域の方をゲストティーチャーとして迎える授業を行い、地域人材を活用することができた。また、校外学習などにおいて、多くの保護者の協力により安全を確保し、学習活動を充実させることができた。 ○月1回、パトロール会議（学校・PTA・富士見パトロール隊・健全育成）を開催し、児童の安全確保のための情報交換・話し合いを行った。 ○「学校と家庭の連携推進事業」の取り組みにより、個に応じた指導・支援を行うことができた。講演会、ケース・アドバイスなど、スーパーバイザーを活用することができた。 ○地域行事費は、毎回大勢の教員が参加することができた。 ○学校ホームページの滞りがちであった各ページを新たにし、更新を進めた。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「保護者や地域に対して積極的に情報を提供し、開かれた学校作りに努めている。」 93% 「授業評価や学校評価を生かして保護者や地域の願いに応えようとしていますか。」 84% 「教員は、保護者や地域に対して、誠実な態度をとっていると思いますか。」 94%という肯定的評価であった。 開かれた学校、保護者・地域との連携について、理解・協力を得られていると考える。 ○関係者評価委員会において、交通安全などの諸事業が、地域やボランティア等の活動により充実していたと評価を受けた。</p>	<p>○今まで以上にパトロール隊や地域の方に授業や行事に参加していただき、その教育力を活用するとともに、児童に「地域の中で生きる」という意識をもたせる。教職員も積極的に地域活動・行事に参加していく。 ○学校HPのリニューアルにともない、内容の精選と更新の効率化を図り、学校の発達力を高める。</p>	B
特色ある教育活動	<p>○「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果において、学力層分布を昨年度と比較すると、下位CD層の割合を大きく減らすことができた。習熟度別指導・個別指導による下位の底上げが達成できた。 ○算数の課外学習は、十分な回数を確保することが難しかった。 ○日本語指導では個に応じた内容・進度・学習方法が可能であり、児童に力を付けさせるとともに、自信をもたせ、学習意欲を向上させることができた。 ○いしわら教室の指導では、通級指導者と校長・担任による情報交換や指導体制の協議・確認を密に行うことができ、効果的に進めることができた。</p>	<p>○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「子どもたちの学習意欲を向上させるための授業の改善や工夫がなされ、充実した授業が日々展開されていると思いますか。」 88% ○児童（高学年）対象のアンケートでは、「先生は、自分の話をよく聞いてくれますか。」 98% 「先生は、がんばったことを認めてくれますか。」 98%という肯定的評価であった。 子どもたちの個性に対応し、子どもたちが充実感・達成感を抱きながら力を付けていけるように取組の強化を図っていく。</p>	<p>○日本語指導については、毎時間の予定・活動・所見を記録し、担当者と担任が情報交換し、学級の指導との相乗効果を図る。 ○いしわら教室の巡回指導システムについて研究・充実を図る。また、いしわら教室担当教員と通常学級担任と連携し、いしわら教室のノウハウを活用し、指導の効果を上げる。</p>	B
	<p>○新たな文化芸活動を多く実施した。児童の感想から、児童が初めて接する演劇や芸能に感激したり興味を広げたりする様子が見られた。主な取り組みは以下の通り。 ・読書週間の充実 ・学芸大学とコラボレーションした6年児童の図工作品制作と市外への出展 ・茶道・華道を取り入れた授業の実施 ・劇団による「美しい日本語」指導</p>	<p>○学校関係者評価アンケート（保護者）において、「石原小学校のめざす学校像は、達成されていると思いますか。」 90% ○児童（高学年）対象のアンケートでは、「学校や家では、自分から進んで本を読むようにしていますか。」 86%という肯定的評価であった。 ○関係者評価委員会において高い評価をいただいたこれらの取組は、引き続き継続・充実を図っていく。</p>	<p>○読書活動のさらなる充実を図り、教員組織・司書・児童会組織に活動を整理していく。読書週間の取組、授業での図書館活用、図書館整備を分担して進めていく。 ○今年度に取り組んだ文化文芸的な活動を継続するとともに、新たな企画にトライしていく。そのために、大学・地域・保護者等の外部団体との連携・協力を図る。</p>	B